

平成22年度第1回定例会

日 時： 平成22年4月21日（水）午前9時30分～

場 所： 本館 講座室

---

(会長) 平成22年度第1回定例会を開催する。今まで協議してきた、「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」の答申は、ほぼ全員の意見が組み入れる形で出来上がった。

(答申を館長に手渡す)

ぜひ委員の意見をくみ取り、今後の図書館に反映できればと思う。

今回のような意見の収集、並列の形は、欠席した委員でもつくっていただけるような方法として、よかったかと思う。

(事務局) 答申については、このような形でまとめていただき感謝している。

(会長) では次の「図書館の評価について」に移る。

(事務局) 図書館法等の改正により、図書館、公民館等の社会教育施設について評価を問うことになった。多摩市の現状は、毎年決算事業報告書の事業カルテとして診断、結果を出しているが、図書館だけの評価でいいのか、このシート方法がいいのかどうか。また多摩市の組織改正により、生涯学習部の文化・スポーツ関係は市長部局へいき、図書館、公民館は教育部に再編され、多摩市の生涯学習部は、2つに分かれたことになっている。今日配付した資料の社会教育委員の提言書等の抜粋の写しは、この評価の在り方についてのものである。社会教育委員の提言書は、「部局を超えた審議会の設置により、横断的に話し合う場を設定することで、今回の総合施策を効果的に進めることができると考えます」とある。また公民館運営審議会の答申は「(仮)生涯学習審議会のようなものを設置し、その中で各部会を設け、その中の代表者が集まって話し合い評価をする」といった趣旨のものである。欧米型の図書館は公民館要素を含んでいるが、日本では図書館から公民館を切り離し、公民館単体の運営は日本独自のものである。図書館の事業だけの評価でいいのか、連携・協働を考えていくべきなのか、図書館の中でも考え切れていない。委員の意見等を伺えればと思う。

(会長) 評価のあり方について、委員はいかがか。

(委員) 公民館運営審議会の答申のように、全部で統一する方法は難しいのではないか。市のやり方として、本当にできるのかどうか。ただこのように準備していただければありがたいとも思う。

(会長) 方法としては望ましいが、どのような効果があるのかということは難しいと思う。

- (委員) 趣旨がわからない。具体的なものが見えないので、何について意見をいったらいいか、わからない。
- (会長) 補足説明願いたい。
- (事務局) 日本の図書館独自の、図書館だけに特化した評価方法を深めるべきなのか、欧米の図書館は、図書館だけでなく日本の公民館的機能や演劇活動などを幅広く合わせ持つように、多摩市の図書館や、公民館などの横のつながりが補い合っているのかどうか確認していった方がいいのか、委員に意見を意見を伺いたい。
- (委員) 多摩市の図書館だけのことではなく、全国の図書館が共通に行うものである。全体的に図書館を見た方がいい。
- (会長) 多摩市の図書館について、地域の特性にあった運営をしていると感じている。関戸図書館の開館当初は地域的な利点があり、高い評価を与えたいが、25年ほど経ち、借りる方のマナーの低下を感じる。流行りの本を一早く図書館で借りるなど、それも図書館の業務のひとつではあるが、そのような利用の仕方が多く見られる。それらのことは行政が指導すべきことから逸脱したことで、利用者のマナーの低下は今日の姿を現している。先日、知人から図書館の司書の対応がよく、もっと利用しようかと思っているという話を聞き、そういう意味では新たなファンをつかもうとしているので、ある程度の評価はしていいのではないかと。
- (委員) 学校としては、学校と図書館の関連についての評価はできるが、一般的な市民サービスの評価は難しい。行政で実施している事業評価と、学校でいうと、具体目標に対してどうであったかという評価の側面がある。絞った評価でいくのか、大きな視点から図書館を評価していくのか、そのあたりがはっきりすると評価しやすくわかりやすいのではないかと。
- (委員) 特にはない。
- (委員) 図書館の評価をするということは何か。図書館協議会は評価する機関なのか。
- (事務局) 他市の中では図書館協議会で評価を行っているところもある。位置付は、固まっているものではない。
- (委員) 自分たちを評価するのも大切だが、図書館のカウンターに立つと、市民の評価が目に見える。多摩市民として、広報の仕方が下手である。図書館のアピールがない。サインの変更もいつまでもしていない。
- (委員) 図書館の評価を論じるのか、評価のあり方なのか。
- (事務局) 評価のあり方についてである。
- (委員) 事業仕分けのようなことを言っているのか。この2年間、ある程度の図書館の評価を論じてきている。図書館協議会が統合されることが出ているから論じているのか。

- (事務局) 法は図書館の一年間の事業に対して、問いかけを実施しなければならないとし、それをどのように行うのか。自分たちで市民に向けアンケート等を取り評価を問うやり方もあるし、図書館協議会で評価を問う方法もある。図書館の役割として、学校との連携、社会教育施設の拠点のひとつとしてといったときに、図書館だけで評価していいのかどうか。社会教育委員の提言書は、部局を超えた審議会の設置、公民館運営審議会の答申は横断的な組織の整理が必要とっている。深く狭く図書館だけを評価するのか、市全体を見渡した評価をするのか。市民の目から見た場合の、納得のいくような評価の仕方は何か。
- (副会長) 町田市の図書館では、その評価をホームページに掲載している。図書館内部だけでなく、調査機関も使っている。統計的な基礎調査はしてきたが利用者の意識調査はしてこなかったのが、声を把握するために、大規模なアンケートを取ったとしている。(町田市立図書館の評価の説明) 同じことをするためには、お金をかけなければならないが、項目としては細かく出ているので、評価の参考になる。部分的にあちこちに聞いても全体的な評価にはつながらないので、市民の声を聞くには、かなり細かく、分析をどうするかということが問題になってくる。
- (会長) 評価についての項目について、事前に資料の配付があれば、もう少し答えることができたのではないかと。利用者にも文書を使って図書館をアピールし、それに応えることにより、市民が間接的に図書館に係わっているんだという捉え方ができるようなものを、次々と打ち出すことが大切ではないかと思う。
- 次に唐木田図書館の運営に移る。
- (事務局) いろいろな説明をしてきたが、改めて説明したい。  
(多摩市立図書館の経緯と唐木田図書館の運営について、パワーポイントを使って説明)
- (会長) 唐木田図書館の運営について、理解が深まったかと思う。市が責任を持って運営に携わっていくということなので期待したい。  
最後の定例会なので、委員の挨拶をいただきたい。  
(各委員の挨拶)
- (会長) 今後とも図書館に関心を持ち、「図書館好き」をつくっていただき、ご協力方々よろしくお願ひしたい。これで終了する。